

高校国語 専門問題例

例一 次の文章を読んで、(1)～(6)の問い合わせに答えなさい。（設問の都合上、表記を改めた箇所がある。）

(本文省略)

(2)(1) 波線部ア～エのカタカナを漢字に直して書きなさい。

点線部「激しい競争を経験してきた」を例にならつて単語に分けなさい。

(例) 雨一が一やみ一雲間一から一光一が一さす。

(4)(3) 二重傍線部「解放」の対義語を漢字二字で答えなさい。

(4)(3) 傍線部A「量的なエネルギーの大きさ」という面と、ベクトルの多様さという質的な面」とあるが、「量的な面」と「質的な面」とはどういうことか。それぞれ三十字以上四十字以内で答えなさい。

(5) 傍線部B「ふるさとは他人との『つながり』による満足を約束するはずである」とあるが、その理由を八十字以上九十字以内で答えなさい。

(6) 答者は本文において、「新しいふるさと」とはどういうものだと述べているか。八十字以上九十字以内で答えなさい。

(令和三年度)

例二 次の文章は、作者の子が賭弓（宮中で行われる弓の競技）の射手に選ばれたこと

に関する内容が書かれている。これを読んで、(1)～(7)の問い合わせに答えなさい。

人は、めでたく造りかかやかしつるところに、明日なむ、今宵なむと、ののしるなれど、われは、^A思ひしもしく、かくともあれかしになりにたるなめり。されば、げに懲りにしかばなど、思ひのべてあるほどに、三月十日のほどに、内裏の賭弓のことありて、いみじくいとなむなり。幼き人、しりへの方にとられて出でにたり。「方勝つものならば、その方の舞もすべし」とあれば、このごろは、よろづ忘れて、このことを急ぐ。舞ならすとて、日々に樂をしのしる。出居につきて、賭物とりてまかでたり。^Bいとゆゆしとぞうち見る。

十日の日になりぬ。今日ぞ、ここにて試楽のやうなることする。舞の師、^{おほのよしもち}多好茂、女房よりあまたの物かづく。男方も、ありとあるかぎり脱ぐ。「殿は御^a物忌^bなり」とて、をのこどもはさながら來たり。事果てがたになる夕暮に、好茂、胡蝶樂舞ひて出で來たるに、黄なる^b单衣脱ぎてかづけたる人あり。折にあひたるここちす。また十二日、「しりへの方人さながら集まりて舞はすべし。ここには弓場なくて悪しかりぬべし」とて、^cかしこにののしる。「殿上人数を多くつくして集まりて、好茂埋もれてなむ」と聞く。われはいかにいかにと^Dうしろめたく思ふに、夜更けて、送り人あまたなどしてものしたり。さて、とばかりありて、人々あやしと思ふに、はひ入りて、「これがいとらうたく舞ひつること語りになむものしつる。みんな人の泣きあはれがりつること。明日明後日、物忌、いかにおぼつかなからむ。五日の日、まだしきに渡りて、ことどもはすべし」など言ひて、帰られねれば、^E常はゆかぬここちも、あはれにうれしうおぼゆることかぎりなし。

(『蜻蛉日記』より。)

(注) 「人」 || 作者の夫。(この時、夫は新郎を造営したばかりであった。)

「しりへ」 || (弓の競技の) 後手組。 「出居」 || 練習場。

「五日の日」 || 十五日。(この日に賭弓が催されることとなつた。)

(2)(1) 二重傍線部 a・b の漢字の読みを、それぞれ現代仮名遣いで答えなさい。
次の文は、波線部「なめり」について説明したものである。空欄にあてはまる言葉を
答えなさい。

「なめり」は断定の助動詞の①形に②の助動詞の終止形が接続した「なるめ
り」の撥音便③の撥音が無表記となつたものである。

(2)(3) 傍線部 A・B を、それぞれ現代語訳しなさい。

(5)(4)(3) 傍線部 C について、「かしこ」の指す内容を明らかにして、現代語訳しなさい。
傍線部 D とあるが、何に対してもう思っていたのか、「ということ」に続く形で、二
十字以内で説明しなさい。

(7)(6) 傍線部 E について、その理由を三十五字以上四十字以内で説明しなさい。
次のア～エを、成立した年代の古いものから順に並べ、記号で答えなさい。

ア 蜻蛉日記 イ 十六夜日記 ウ 土佐日記 エ 更級日記

(令和三年度)

例三 次の文章を読んで、(1)～(6)の問い合わせに答えなさい。(設問の都合上、表記を改めた箇
所がある。)

荀巨伯、遠_ク看_ニ友人、疾_ヲ、值_ニ胡賊_ノ攻_{ムルニ}郡_ヲ友人語_{リテ}巨伯_ニ
曰_{ハク}吾、今死_{ゼン}矣。子_{、可レ}去_ル。巨伯曰_{ハク}遠_ク來_{リテ}相視_{ルニ}子令吾去_。
敗_レ義_ヲ以_テ求_レ生_ヲ豈苟_ジ巨伯所行邪。賊既_ニ至_リ謂_{ヒテ}巨伯曰_{ハク}大
軍_{至_{リテ}}一郡_ヲ盡_{カシムニ}空_{キニ}汝_{、何}男_子而_ニ敢_{ヘテ}獨_リ止_{マレルヤト}巨伯曰_{ハク}友人
有_レ疾_{、不_レ}忍_ビ委_レ之_ヲ。寧_ニ以_テ我身_ヲ代_{ヘント}友人命_ニ。賊相謂_{ヒテ}曰_{ハク}我
輩_{無_{シテ}}義_之人_、而_ニ入_{ランヤト}之_ヲ國_ニ。遂_ニ班_{ラシテ}軍_ヲ而_ニ還_ル。一郡_ヲ並_{ビニ}
獲_{タリ}全_{キヲ}

(『世説新語』より。)

(注) 「荀巨伯」 || 河南省の人。後漢桓帝のころの人。

「相視」 || 会って安否を確かめること。

「胡賊」 || 北方の異民族。
「班軍」 || 軍隊を引き返すこと。

(5)(4)(3)(2)(1) 波線部①～③の漢字の読みを送り仮名も含めて現代仮名遣いで書きなさい。
傍線部 A をすべてひらがなで書き下し、現代語訳もしなさい。
傍線部 B を「所行」の内容を具体的に示して現代語訳しなさい。
傍線部 C とは対照的な部分を抜き出しなさい。ただし、訓点は含まない。
本文中の□に入る最も適切な語を、漢字二字で書きなさい。

波線部①～③の漢字の読みを送り仮名も含めて現代仮名遣いで書きなさい。
傍線部 A をすべてひらがなで書き下し、現代語訳もしなさい。
傍線部 B を「所行」の内容を具体的に示して現代語訳しなさい。
傍線部 C とは対照的な部分を抜き出しなさい。ただし、訓点は含まない。
本文中の□に入る最も適切な語を、漢字二字で書きなさい。

(6) 傍線部Dとあるが、このような結果に至ったのはなぜか。本文の内容を踏まえて二十字以上三十五字以内で説明しなさい。

(令和二年度)

例四 高等学校学習指導要領「第2章 各学科に共通する各教科」「第1節 国語」の内容について、(1)～(3)に答えなさい。

(1) 次の文は、「第1款 目標」の一部である。文章中の①～⑥にあてはまる語句を答えなさい。

(2) 生涯にわたる①における②との関わりの中で③を高め、思考力や想像力を伸ばす。
(3) 言葉のもつ④への認識を深めるとともに、言語感覚を⑤、我が国の言語文化の⑥としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

(2) 次の文は、「第2款 各科目」「第1 現代の国語」「2 内容」「知識及び技能」の一部である。文章中の①～④にあてはまる語句を答えなさい。

(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 主張と①など情報と情報との関係について理解すること。
イ 個別の情報と②された情報との関係について理解すること。
ウ ③の仕方を理解し使うこと。
エ 情報の④や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。

(3) 次の文は、「第2款 各科目」「第2 言語文化」「2 内容」「思考力、判断力、表現力等」の「B 読むこと」の一部である。①～⑤にあてはまる語句を後のa～jから選び、記号で答えなさい。

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 文章の①を踏まえて、内容や構成、展開などについて②を基に的確に捉えること。
ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について③すること。
エ 作品や文章の成立した④や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。
オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の⑤をもつこと。

f a 思い
理解 g b 考え
評価 h c 叙述
吟味 i d 過程
背景 j e 描写
種類

(令和二年度)

例五 次の文章を読んで、(1)～(7)の問い合わせに答えなさい。（設問の都合上、表記を改めた箇所がある。）

北山の辺に Aよしある所のありしを、はかなくなりし人の領する所にて、花の盛り、秋の野辺など見には、常に通ひしかば、誰も見し折もありしを、ある聖の物になりてと聞きしを、Bゆかりあることありしかば、せめてのことに、忍びて渡りて見れば、面影は先立ちて、またCかき暗さるるさまぞ、言ふ方なき。磨きつくるはれし庭も、浅茅が原、蓬が柵になりて、葎も苔も茂りつつ、ありしけしきにもあらぬに、植ゑし小萩は茂りあひて、北南の庭に乱れ伏したり。藤袴うちかをり、ひとむらすすきも、まことに虫の音繁き野辺と見えしに、車寄せて下りし妻戸のもとにて、ただひとりDながむるに、さまざま思ひ出づることなど、言ふもなかなかなり。例のものも覚えぬやうにかき乱る心の内ながら、

E露消えしあとは野原となりはてでありしにも似ず荒れはてにけり

跡をだに形見に見むと思ひしをさてしもいとどかなしさぞ添ふ

東の庭に、柳桜の同じ丈なるを交せて、あまた植ゑ並べたりしを、ひとつせの春、もろともに見しことも、ただ今の心地するに、梢ばかりは、さながらあるも、心憂く悲しくて、F植ゑて見し人はかれぬるあとになほ残る梢を見るも露けし

わが身もし春まであらば尋ね見む花もその世のこと（　）忘れそ

（注）「はかなくなりし人」＝この人と作者とは恋愛関係にあつた。

（『建礼門院右京大夫集』より。）

(3)(2)(1) 傍線部 A・D の意味をそれぞれ答えなさい。

傍線部 B を、その相手を補つて現代語訳しなさい。

(4) 傍線部 C とはどのような様子か。その理由も明らかにして五十字以上六十字以内で説明しなさい。

(5) 傍線部 E について、次の a・b に答えなさい。

a ここで用いられている和歌の技巧を説明しなさい。

b 「ありし」を簡潔に言い表している箇所を九字で抜き出しなさい。

(6) 傍線部 F を現代語訳しなさい。

(7) (1)～(6)にあてはまる副詞を答えなさい。
「建礼門院右京大夫集」と成立した時代が同じである作品を、次のア～エから二つ選び、記号で答えなさい。

ア 十六夜日記 イ 和漢朗詠集 ウ 風姿花伝 エ 発心集

（令和元年度）

例六 次の文章を読んで、(1)～(6)の問い合わせに答えなさい。（設問の都合上、表記を改めた箇所がある。）

伝曰、賞疑徒与所以広恩也。罰疑徒去所以慎レ

刑也。当堯之時、臯陶為士。將殺人。臯陶曰殺之三、堯

堯曰宥之。故天下畏臯陶執法之堅一而樂堯

用フル刑ヲ之寛一。四岳曰、鯀々可シトフ用。堯曰、不可ナリ。鯀方レ命圮族。既ニシテ而曰、試ミント之。何シテ堯之不聴カ。臯陶之殺レ人、而徙ヘル四岳。之用ヒントスルニヲ也。然ラバ則聖人之意、蓋亦可シ見ル矣。書曰、罪ノ。疑ハシキハレ惟軽功、疑ハシキハレ惟重。クセヨ。以無カル罰スル。罰スレバ之ヲ過ク乎。義ニ。過ク乎仁ニ、不レ失為ル。君子ニ。過ク乎義ニ。則チ流レテ而入ル於忍人。故仁ハ可キ過ク也、義ハ不ル可過ク也。

(『続文章軌範』より。)

(注)「伝」=古い書物。

「士」=裁判官。

「方命」=命令を放置すること。

「不辜」=無実の人。

「失不經」=法に従わないこと。

「臯陶」=帝の臣下。

「鯀」=人名。

「書」=「書經」。

「忍人」=残忍な人。

(6)(5)(4)(3)(2)(1)

波線部①～③の漢字の読みを送り仮名も含めて現代仮名遣いで書きなさい。
傍線部Aを書き下し、現代語訳もしなさい。
傍線部Bは誰をどうすることか。十字以内で答えなさい。
傍線部Cを現代語訳しなさい。

傍線部Dが表す内容とほぼ同意の部分を本文中から漢字二字で抜き出しなさい。
傍線部Eとあるが、「仁」は過ぎてもよいが「義」は過ぎてはいけないという理由を、「仁」と「義」を対比しながら、四十字以上五十字以内で説明しなさい。

(令和元年度)

例四			例三			例二			例一			問題番号	正 答 例												
(3)	(2)	(1)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)				
①	④	①	①	④	①	す るの をや めた から。	友人 思いの 苟巨伯 の言動 に賊た ちが感 心し、攻 撃	有義	（大軍 至、 一郡 尽空）	書 き下 し文 化語 訳	（大軍 至、 一郡 尽空）														
j	妥 当性	論 拠	価 値	社会 生 活																					
②																									
c																									
③																									
g																									
④																									
i																									
⑤																									
b																									

